

病態機構学講座 — 泌尿器病態学分野

Department of Urology

人に優しい総合診療科 ～グローバルな広がりを見せる研究分野～



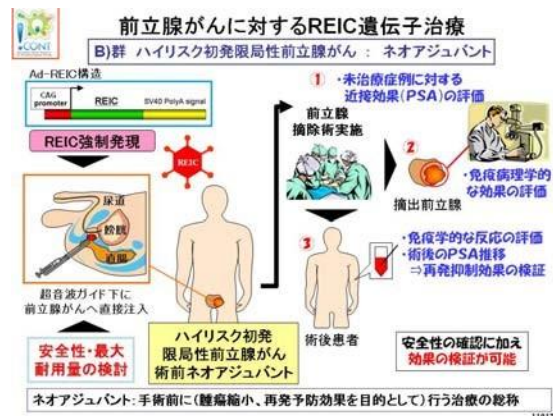
分野紹介

岡山大学泌尿器科教室では“人に優しい総合診療科”として多岐にわたる臨床、研究活動に取り組んでいます。研究面では、基本的には内分泌グループ（1研）、感染症グループ（2研）、悪性腫瘍グループ（3研）、膀胱機能グループ（4研）、移植グループ（5研）の5研究室において研究活動がおこなわれています。ここ5年間の欧文論文は、Proc Natl Acad Sci USA.2編、Cancer Research 2編、Cancer 1編、Journal of Urology 7編などをはじめとして100編余りを数えています。国際交流、海外留学も盛んで、ここ15年の留学先としては、米国ではスタンフォード大、トーマスジェファーソン大、ピッツバーグ大、ベイラー医科大学、クリーブランドクリニック、マイアミ大、オクラホマ大、カナダのクイーンズ大、ドイツのギーゼン大などで、教室ファカルティにも7名の留学経験者がいます。この背景をもとに国際共同研究も盛んでベイラー医科大学との免疫遺伝子治療、ラドウイック研究所とのタンパクワクチン療法、中国北京大学における泌尿器科診療支援など枚挙に暇がありません。

内分泌グループでは人間の根幹に関わる「性」に関する研究を主に行っています。現在の研究テーマとしては、性同一性障害患者のホルモン治療に関する臨床研究、精索静脈瘤と術後の妊容性に関する臨床研究、機能的MRIによる性的興奮の高次脳機能に関する研究、精巣におけるエンドサイトーシス機構の解明などがあります。感染症グループでは主に細菌バイオフィームと耐性菌による院内感染症の研究・乳酸菌を用いた尿路感染症の予防に関する研究、ならびにクラミジアを中心とする性感染症の研究を行っています。悪性腫瘍グループでは、主に遺伝子治療の研究開発、臨床応用を実践しています。「自殺遺伝子を用いた前立腺癌の遺伝子治療臨床研究」「IL-12遺伝子発現アデノウイルスベクターを用いた遺伝子治療臨床研究」を開始しました。さらに、岡山大学独自に同定した新規腫瘍抑制遺伝子 REIC/Dkk-3の臨床応用を行いました。また、膀胱癌に対する細胞膜透過性ペプチドを用いた D-isomer型 p53ペプチド導入治療法を細胞生理学教室と共同研究しています。さらに腫瘍溶解ウイルスを用いた治療の開発。新規抗癌剤による尿路上皮癌治療の臨床研究など多岐にわたる研究を行っています。膀胱機能グループでは、無侵襲性超音波排尿診断装置の開発、ボツリヌス神経毒素を用いた難治性過活動膀胱および排尿障害の治療、慢性前立腺炎における神経成長因子（NGF）の有効性に関する研究、ヒトヘルペスウイルスを用いた糖尿病性膀胱機能障害に対するNGF遺伝子治療の開発などを行っています。移植再生医療グループは腎移植時の腎虚血再灌流の基礎研究および標準的な移植医療を実践しています。

人にやさしい総合診療科

内分泌（1研）	男性不妊症、男女性機能、性同一性障害
感染症（2研）	薬剤耐性メカニズム、細菌バイオフィーム 新規クラミジア
悪性腫瘍（3研）	遺伝子治療の研究開発、ペプチド導入治療 腫瘍溶解ウイルス
膀胱機能（4研）	排尿診断装置の開発、 排尿障害のバイオマーカーの研究
移植再生（5研）	腎移植時の虚血再灌流障害の研究、再生医療



連絡先／岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 泌尿器病態学（医局長 小林泰之）

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1 TEL

: 086-235-7286 FAX : 086-231-3986

E-mail : uro2@md.okayama-u.ac.jp

URL : <http://www.uro.jp/okayama>